



ウォール街の世界最大級の投資銀行ゴールドマン・サックス本社前で「国民の金をこの袋に返して」と迫るムーア監督。（「キャピタリズム～マネーは踊る～」から）

©2009 Paramount Vantage, a division of Paramount Pictures Corporation and Overture Films, LLC.

映画「キャピタリズム～マネーは踊る～」サブプライムローン破綻後の米国に迫る

1%が99%

# を虐げる

・ブッシュ大統領のイラク戦争を痛烈に批判した「華氏911」。アメリカの医療保険の実態に鋭いメスを入れた「シッコ」。

1作ごとに話題を呼ぶマイケル・ムーア監督(55)が、今度は、「キャピタリズム(資本主義)は踊る」で、強欲資本主義に迫ります。新作の公開を前に初来日したムーア監督は、記者会見(11月30日)で、熱く語りました。

会見は、ムーア監督が入国の際、税関で指紋を取られることを知り、抵抗したてん末から始まりました。「誰もが、時には自分の権利のために立ち上がらなければならない」というムーア監督のムーア節。

## 信頼寄せる人

デビュー作以来20年。約束なしに不意打ちの突撃取材を重ねる作品を次々送り出し、すっかり有名になったムーア監督。「企業のトップや権力の座にある人たちは、僕と話をしたがるので、彼

らの取材をするのは大変厳しい」と言いま一方、大企業や権力者を遠慮なく批判する監督に信頼を寄せる人たちがいます。その人たちからは、続々と投書や資料が届き、「取材が楽になった」とも。

そのなかの一つの映像が、「キャピタリズムは踊る」の冒頭に使われています。銀行に差し押さえられた家に近づく車列。ドアのかぎをたたき壊す音。保安官に自宅からの強制退去を迫られるさまを家の中か

ら撮り続けたノースカロライナ州の一家が、ビデオを届けてくれたのです。「ムーアに送るのが一番、と送ってほしい」と。

低所得者向け住宅ローン(サブプライムローン)の破たん以降、今やアメリカでは、「7秒半ごとに、家が

1軒差し押さえに遭い、強制退去させられている」、その生々しい実例です。

「キャピタリズムは踊る」は、2時間7分のドキュメンタリー。丹念な取材で、富と力ある者の横暴を突き、貧者に優し

いままさしはここでも生きています。銀行や企業の倒産で突然クビになった労働者。家族に内緒で社員に生命保険をかけ、その死でもうける大企業

## 日本は侵略戦争を支援しないで

この映画の中に、日本が数分だけ紹介されます。敗戦で新しい憲法を持った国として

### まねしないで

会見で、日本人へのメッセージは、と聞かれて、「こう語りました。

「アメリカでエルビス(・プレスリー)のまねをしてくださった首相がいました。その首相も含め、保守的な首相が代々続いて、

ます。新自由主義のはしりとなったレーガン大統領以来の弱肉強食の経済政策がもたらした国民の実態です。

金融業界トップが政権の中枢に座り、自分たちに都合よく規制緩和を進めたあげくの、アメリカ経済の破たんを映像ならではの迫力で見せていきます。

ところが、金融危機を招いた投資銀行や保険会社は、議会の後ろ盾によって国民の税金7千億(約63兆円)で救済されます。1%の富裕層が、99%の庶

民を虐げるアメリカ社会。いったい税金はどこへ。ムーア監督の怒りはニューヨークのウォール街に。さらには、不当な処遇に屈せず立ち上がった人々を追って、意気高くもにたたかおうと呼びかけます。

ムーア監督は、「いろんな文明国の中で、アメリカの現状は、なぜこんなに目をおおいなくなるものなのか。その疑問を永遠のテーマとして自作で描いているつもり」と会見で語りました。

「BE JAPAN」(日本は日本のままでいてください)、と。語り口にだんだん熱がこもります。

「教育の価値を十分大切だと思った日本、解雇はしないとたたき日本になってください。他国に一切侵略しない、他国を侵略しようとしている国を一切サポートしないとたたき国に戻ってください」

さらに、世界中の人々が苦しんでいる理由

もう戦争は欲しくない」と。「世の中は絶対良くなる」と信じている。「日本をはじめとする諸国の責任も問いました。ムーア監督は、最後に、映画にも登場した88歳の父親の話をしました。父親は、太平洋戦争中、沖縄に駐留し、おじは、フィリピンで戦死しています。父親は、オバマ大統領が、アフガニスタンでの今後の戦争政策について1日に発表する前に、要望を送った、といます。オバマ大統領、あなたは戦争をご存じない。戦争を知っているわれわれは、

「日本の方々と平和への願い、平和へのメッセージを分かち合えることを大変うれしく思います。戦後60年以上、日本の方々は平和への旗手として活躍していらっしやうと僕は思います」



マイケル・ムーア監督 初来日

初来日の記者会見で語るマイケル・ムーア監督。11月30日、東京証券取引所(撮影 橋爪拓治記者)

5日から東京・TOHOシネマズシヤンテ、大阪・TOHOシネマズ梅田で公開。1月9日から全国拡大公開



資銀行ゴールドマン・サックス本社前で「国民の金をア監督。（「キャピタリズム～マネーは踊る～」から）

©2009 Paramount Vantage, a division of Paramount Pictures Corporation and Overture Films, LLC.

# 1%が99%を虐げる

## 「タリズム～マネーは踊る～」 サブプライムローン破綻後の米国に迫る

・ブッシュ大統領のイラク戦争を痛烈に批判した「華氏911」。アメリカの医療保険の実態に鋭いメスを入れた「シッコ」。

1作ごとに話題を呼ぶマイケル・ムーア監督(55)が、今度は、「キャピタリズム(資本主義)～マネーは踊る～」で、強欲資本主義に迫ります。新作の公開を前に初来日したムーア監督は、記者会見(11月30日)で、熱く語りました。

会見は、ムーア監督が入国の際、税関で指紋を取られることを知り、抵抗したてん末から始まりました。「誰もが、時には自分の権利のために立ち上がらなければならない」というユーモアたっぷりムーア節。

### 信頼寄せる人

デビュー作以来20年。約束なしに不意打ちの突撃取材を重ねる作品を次々送り出し、すっかり有名になったムーア監督。「企業のトップや権力の座にある人たちは、僕と話をしたがらないので、彼

らの取材をするのは大変厳しい」と言います。

一方で、大企業や権力者を遠慮なく批判する監督に信頼を寄せる人たちがいます。その人たちからは、続々と投書や資料が届き、「取材が楽になった」とも。

### まねしないで

そのなかの一つの映像が、「キャピタリズム」の冒頭に使われていました。銀行に差し押さえられた家に近づく車列。ドアのかきをたたき壊す音。保安官に自宅からの強制退去を迫られるさまを家の中か

この映画の中に、日本が数分だけ紹介されます。敗戦で新しい憲法を持った国として。

会見で、日本人へのメッセージは、と聞かれて、「こう語りました。「アメリカでエルビス(・プレスリー)のまねをしてください。首相がいきました。その首相も含め、保守的な首相が代々続いて、

## 日本は信

ら撮り続けたノースカロライナ州の一家が、ビデオを届けてくれたのです。「ムーアに送るのが一番、と送ってください。とてもありがたい」と。

低所得者向け住宅ローン(サブプライムローン)の破たん以降、今やアメリカでは、「7秒半ごとに、家が